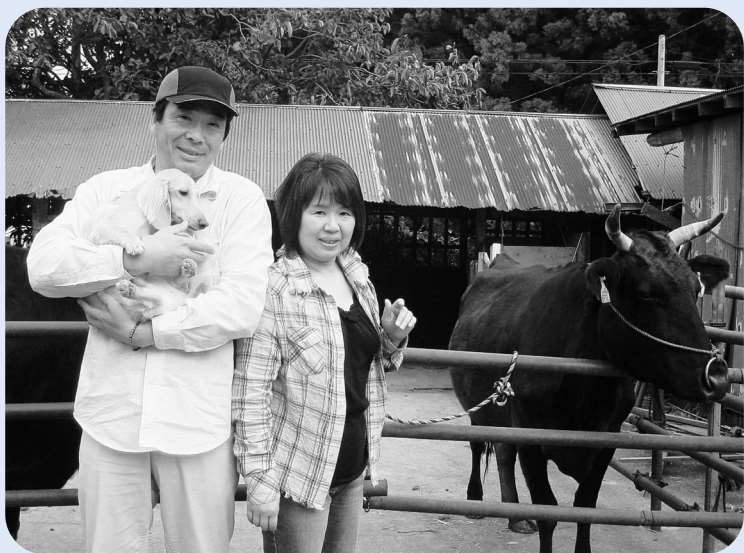


畜産農家を訪ねて

シリーズ5

広野町では、7軒の農家が、広野町和牛部会に加入して和牛繁殖経営に携わっています。日々和牛の飼育に励んでいる会員を紹介しています。



▲靖志さんと奥さんの美好さん

蓄主名

坂本靖志さん
(大字折木)

蓄主歴

●平成16年1月から父の意志を継いで飼育を始め、現在、親牛2頭(11月には2頭とも出産予定。)

牛を飼育して良かったと感じるときは

- 苦勞して育てた牛が無事に出産を迎えたとき。
- 育てた子牛が高いセリ値で売れたとき。

牛を飼育して大変なこと

- 牛は、食いだめができないので、長期間離れることが出来ない。その時は人を頼らなければならない。

飼育するのに工夫していること

- 餌の牧草を畜産共同組合から購入しながら飼育すれば、私達のように夫婦共働きでも続けられる。
- 知らないことは、インターネットを利用して調べている。
- 何かあったら、NOSAI(全国農業共済協会)の獣医さんにこまめに相談している。
- 1年1産を目標にしている。
- 毎日、糞を取り、清潔を心がけ、ストレスをためないように運動できるようにしている。
- 堆肥を雨があたらないようにして乾燥させた状態にして保存しておく utilization もしやすいので、野菜作りに活用している。

和牛を導入して繁殖経営に取り組んでみたい方は、役場産業グループまでご連絡下さい。
 広野町役場 産業グループ ☎0240-27-4163

広野文芸欄

広野町神無月句会

季題 当季雑詠

宮下 純子
 竜胆の大東小束朝の市
 萩の露デイサーピスの車行く
 秋彼岸賽銭多き六地藏

西山子

群れ咲いて土手に吹かるる秋桜
 新涼の空に吸はるる鍛冶の音
 満月や背伸びしてゐる摩天楼

塩 史子

秋の陽や意外と広き奥座敷
 戻るなり今夜は秋刀魚と夫の言ふ
 田廻りや四方八方蝗跳ね

阿部 真生

秋近し集つてゐる蝸牛
 十五夜の月の見えない団子かな
 雨上り夏の終りの暑さかな



遠藤健太郎

延長戦見続けてゐる夜長かな
 石段を子ら大股に秋彼岸
 潜み入るいづこに虫のしらべかな

悟 峯

星仰ぐこぼろぎの声足元に
 雲流れ今宵の月の色新し
 佳きことの予感二段の秋の虹

酒井 津祢

出会ひたる人と和みて花野かな
 吹かれるて秋のこぼるるばかりなり
 青空へ向かひてひらく曼珠沙華

俳句会会員募集

移りゆく四季折々の自然を深く心にうけてすきゆく日々を文字にして詠んで見れば如何でしょうか。
 月一回二時間余りののびやかな句会です。講師先生はいわき市より若き猪狩行々子先生、ずっと前から知っていたよくなななつこい眼差しの文学の先生です。一句一句丁寧に読み上げて教えられるのであります。

俳句を作ってみたい御希望の方は「俳句会 遠藤健太郎 ☎27-12412」まで

童謡「作詩・作曲コンクール」

最優秀賞 めひかりキラリ

星 知央 / 作詩・作曲 西澤 健治 / 編曲

キラキラキラリ おめめがキラリ
 大きなおめめの めひかりが
 ゆらゆらゆらり おさんぼしてた
 前から サンマが やってきた
 今日も すてきな おめめだね
 水晶みたいな おめめだね
 いやいや スリムなサンマくん
 とがったお鼻が かっこいい
 サンマは およいでいきました
 サンマは およいでいきました

キラキラキラリ おめめがキラリ
 大きなおめめの めひかりが
 泣きべそかいて 泳いでいたら
 アンコウおじさん やってきた
 どうして そんなに 泣いてるの
 かわいいおめめが まっかつか
 どうして ぼくのおめめだけ
 みんなとくらべて 大きいだけ
 びかびかおじさん あたま光らせ
 アンコウおじさん 言いました
 むかしむかし 海の底で
 まいにち まいにち 願ってた
 おひさまが見たい おひさまが見たい
 いっしょけんめい 見上げてた
 そしたら 大きなキラキラの
 すてきなおめめになりました
 くらくて深い 海のなかで
 きみのひとみは かがやいてる
 めひかり とてもうれしくなっ
 て
 ここに およいでいきました